

令和 7 年 6 月 4 日現在

機関番号：14301

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2020～2024

課題番号：20K02483

研究課題名（和文）明治期におけるカナダ・メソジスト教会の教育事業 - 公教育と学校制度の展開への対応

研究課題名（英文）The Educational Project of Canadian Methodist Church in the Meiji Era

研究代表者

田中 智子（Tanaka, Tomoko）

京都大学・教育学研究科・教授

研究者番号：00379041

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 1,400,000円

研究成果の概要（和文）：来日プロテスタント・キリスト教宣教師の一端、カナダ・メソジスト教会に所属する宣教師、およびその影響下にあった日本人クリスチャンや協力者による教育事業を総合的に検討し、明治期における地域的中等教育の形成過程について考察した。主に東日本の諸都市において、学校の形成と変質とがいかに関与したか、内外の諸主体の対応を歴史的に位置付けた。分析にあたっては、宣教師側の英文史料、ならびに日本側の公文書と新聞を活用した。

以上により、「弾圧と抵抗」史観の根強いキリスト教史・教育史、あるいは学校単位 of 高等教育史の限界に対し、一石を投じることを図った。

研究成果の学術的意義や社会的意義

明治国家にとって、キリスト教は文明化への窓口であった。特に教育や医療の方面において、宣教師のもてる力は大きかった。各府県知事や有力者のなかには、宗教としてのキリスト教の危険性を重視し排除を図る者がいた一方、宣教師の伝道活動は可能な限り容認し、教育・医療事業における協調方策へと向かう者もあった。本研究は、地域のいわば公共的事業としての中等教育における、府県の独自性と自主性の存在、その前提と根拠、妥協と協同の可能性について、関係諸勢力を明確にする次元から論じようとした研究である。

研究成果の概要（英文）：This study examines the educational projects of missionaries belonging to the Methodist Church of Canada, one of the Protestant Christian missions in Meiji Japan, and Japanese Christians and collaborators who came under their influence, and discusses the formation process of regional secondary education in the Meiji period. The study utilized English-language documents from the missionary side, as well as Japanese official documents and newspapers. The study also examined how the formation and transformation of schools took place, mainly in the cities of eastern Japan, and the responses of domestic and foreign actors to these changes.

In this way, it has been attempted to create a stir in the history of Christianity and education where “oppression and resistance” have persisted, or in the history of higher education written in chronological books published by individual schools.

研究分野：日本近現代史

キーワード：宣教師 旧制中学校 カナダ・メソジスト

## 1. 研究開始当初の背景

日本の高等教育史研究は、『東京大学百年史』を筆頭とし、各学校単位での年史編纂事業が牽引する形で進展してきた。

1873年に来日したカナダ・メソジスト教会は、1884年、今日の麻布学園と東洋英和女学院につながる学校を東京に設立した。後者は幼稚園から大学までを有する女子一貫教育校として、その歴史をつかさどる資料室を置き、年史編纂や史料収集に努めている。しかし男子校の麻布学園は、政財界に多数の人材を輩出する有数の進学校ではあるが、現在は中学・高等学校を擁するのみで、附設の大学をもたない。来日アメリカン・ボードの研究が同志社大学、長老派の研究が明治学院大学の研究機関において組織的に進められている現状を想起すれば、カナダ・メソジスト教会史や東洋英和学校史は、「後身大学による自校史研究」さらには「自校史を超えたミッション伝道史の研究」の対象となる条件を欠いた。実際、麻布学園のHPが紹介する学校の沿革には、カナダ・メソジストの名は登場しない。

女子教育に関しては、戦前刊行の『静岡英和女学校五十年史』（1937年）や、東洋英和女学院百年史編纂実行委員会編『東洋英和女学院百年史』（1984年）、山梨英和学院編『山梨英和100年』（1989年）といった年史類が存在する。特に東洋英和女学院の年史は各種の史料を用い、学術的レベルも高い。しかしこれらを通じて、学校単位の縦割りの歴史が描かれる結果となり、相互関係やカナダ・メソジスト教会の全体的な教育構想については考察が深まらずにきた。

本研究は以上のような、「年史編纂事業が牽引する近代日本高等教育史研究」の陥穽と限界を認識した上に立つものである。

ミッションスクールの歴史は、教育史あるいはキリスト教史上の問題として探究されてきた。教育史にせよキリスト教史にせよ、戦前の歴史を研究するにあたり、「弾圧と抵抗」という枠組が強く働いた領域であったことは否めない。その結果、「官立に対抗する私学」像が強調され、個々の私学がいかに国家および「国家的」教育制度から距離を保ったかを示すことに意義が見出されてきた感がある。

本研究が対象とするカナダ・メソジスト教会やその影響下の日本人信徒たちは、着々と整備されていく公教育ならびに学校制度を所与の条件とし、これに対抗するというよりも、そこに即応・便乗するかたちで教育事業を進めた傾向が見て取れる。その試行錯誤・紆余曲折の過程は、検討に値する奥行きを十分に備えている。教育史・キリスト教史が陥りがちな善悪二元論（「柔軟」か「無節操」かといった評価）はとりあえず措き、個別の状況下に誰（どこ）のいかなる判断があったのかを、具体的に明らかにすることが必要と考える。

## 2. 研究の目的

1873年に初来日したプロテスタント・キリスト教宣教団のカナダ・メソジスト教会は、主に東日本の地方都市において、伝道手段としての教育事業を展開した。本研究は、明治期（1870年代～1900年代）におけるその事業の実態と特質を、宣教師側の英文史料、ならびに日本側の公文書と新聞を活用することにより解明しようとするものである。

具体的には、カナダ・メソジスト教会の宣教師、その伝道を通じてキリスト教信徒となった日本人たちの、1870年代から1900年代にかけての教育活動を明らかにする。それは、明治期の中等・高等教育制度、公教育の形成過程を、カナダ・メソジスト教会の教育活動という視角から描きなおすことでもある。

近代日本の公教育と学校制度が整備されていく当該期において、それに即応した戦略をとったのがカナダ・メソジスト教会という宣教団である。宣教師らの学校設置・運営構想、あるいは府県立中学校・師範学校の教員職に就くにあたっての思惑を明らかにする。同時に、府県の対応、日本人信徒や現地有力者の運営面・経済面での協力実態も分析する。さらに、1890年代末の改正中学校令や私立学校令・文部省訓令第12号の下、学校運営が頓挫・変質していく過程についても検討し、本国の宣教団本部・来日宣教師・文部省・府県（当局と議会）・帝国議会・日本人信徒・地域有力者といった、それぞれの主体の対応を歴史的に位置付ける。

カナダ・メソジスト教会からは、19世紀中に少なくとも30名の宣教師が来日し（男性宣教師の妻を除く）、中央の東京と、地方都市（静岡・甲府・金沢）の双方において教育活動を繰り広げた。東京では、前身校時代も含めた東京大学（帝国大学）の学生に伝道拡張の可能性を見出し続けるとともに、ミッションスクールとしての男子校・女子校を誕生させた。地方都市では、男子校や女子校を開設するとともに、府県に設置されていく師範学校や中学校の教員として、個々の宣教師が雇われることを意図した。本研究はあらたに、東京および各都市での行政の対応や支持者層の違いに着目し、比較考察を行う。

## 3. 研究の方法

宣教師の遺した英文の一次史料、府県レベルでの行政文書や地方紙を駆使し、内外の史料を両輪として歴史像を組み立てる。

カナダ・メソジスト教会の史料は、かつてトロント大学ヴィクトリア大学が所蔵した。そのうち、定期的報告書・刊行物である *Annual Report*, *Missionary Notices*, *Missionary Outlook* の大半については、メソジスト教会の信者であった児童文学翻訳家・平林広人、長野工業専門学校・塩入隆の手により、1982年にマイクロフィルム化され、現在、関西学院大学学院史編纂室の所蔵するところとなっている。本研究はこのマイクロを精査するとともに、そのもとになった宣教師個

人の書簡や本部からの応答をカナダにおいて収集し、日本の政治社会状況に対する宣教師の認識や、その上に立つ教育活動の実態についての検討を深める。ヴィクトリア大学の原文書群は、現在、カナダ・メソジスト教会のアーカイヴズとして独立した機関により公開されるが、高嶋祐一郎の研究以来、来日宣教師文書はほぼ活用されていない。

府県は単なる国・文部省の出先機関ではなく、学事上の個々の判断に際しては、府知事県令の裁量も大きい。カナダ・メソジスト教会宣教師は、自前の学校を建てる一方、府県の師範学校・中学校に雇用された。学校を設立する際、あるいは外国人（宣教師）雇用の際には、当事者（日本人）による府県への伺いが必要である。これらの手続きにあたっての府県とのやりとり、特に府県側の判断に着目する。

新聞記事は、断片的であっても、対象についてのイメージを豊富にする閲覧必須の史料である。生徒募集の広告欄にも気を配りながら、各都市で発刊された新聞を検索する。この作業は、各学校の年史においても悉皆的に行われていない。

#### 4. 研究成果

カナダ・メソジストの伝道・教育活動の具体的な展開地として、主に東京・静岡・甲府・金沢にスポットを当てた。

東京での東洋英和学校校長として、改正中学校令・私立学校令・文部省訓令第12号に対応して学校の体制を変えていった江原素六の思想と行動の分析を手がけた。衆議院議事録や高等教育会議における彼の発言を網羅的に収集するとともに、一次史料収集のため、沼津明治資料館（江原素六記念館）を訪問し、「江原素六関係文書」を調査した。

また、カナダ・メソジスト教会の宣教師が関わった静岡の私塾賤機舎・静岡英和学校・静岡英和女学校、甲府の私塾蒙軒学舎・山梨英和女学校・有朋義塾、金沢の金沢英学院について、県行政文書から、設置改廃や外国人雇用に関わる伺書や回答の網羅的な収集を試みた。

静岡県・山梨県・石川県はいずれも公文書館等未設置県であったため、それぞれ、静岡県庁内歴史的公文書閲覧室、山梨県立図書館、石川県行政情報サービスセンターの利用を図った。新聞については、『静岡新聞』『静岡大務新聞』『山梨日日新聞』といった地方紙上の関連記事を、効率的な国会図書館新聞資料室において検索・収集する。金沢については、石川県下で発行された当時の新聞がほぼ現存しないので、便利な検索システムが構築されている富山県図書館が所蔵する『中越新聞』の金沢通信欄に目を通すことで史料不足を補う方法を考えた。

関連の成果として雑誌論文や書評を公表するほか、「教育的都会」京都の誕生 爛熟する官立学校誘致の経験（高木博志編『近代京都と文化』思文閣出版、2023年所収）の執筆に至った。奈良にほぼ決まっていた官立女子高等師範学校の設置を京都に変更する運動が起き、帝国議会でも論争となった事態において、江原素六が変更主張サイドの有力論者となり、女子教育にまつわって、地域と教育との関わりをいかに論じたかを検討した。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計3件（うち査読付論文 2件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 田中智子	4. 巻 44
2. 論文標題 一八九〇年代後半の同志社尋常中学校とその生徒 岸盛辰関連史料より	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 同志社談叢	6. 最初と最後の頁 1-26
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.14988/0002000245	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 田中智子	4. 巻 714
2. 論文標題 大阪府における病・医療とアメリカン・ボード医療宣教師 医の開化と地域化	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 日本史研究	6. 最初と最後の頁 131-159
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 田中智子	4. 巻 54
2. 論文標題 書評 藤本大士著『医学とキリスト教 日本におけるアメリカ・プロテスタントの医療宣教』	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 キリスト教社会福祉学研究	6. 最初と最後の頁 106-107
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計2件（うち招待講演 0件/うち国際学会 1件）

1. 発表者名 田中智子
2. 発表標題 大阪府における病・医療とアメリカン・ボード医療宣教師 医の開化と地域化
3. 学会等名 日本史研究会大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Tomoko TANAKA
2. 発表標題 Comment (Military, Nursing and Mission The Making of Women's Profession and its Training in the 19th and 20th Century Britain and Japan)
3. 学会等名 IFRWH 2024 Conference (国際学会)
4. 発表年 2024年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------